

熊本大学学術リポジトリ

Kumamoto University Repository System

Title	馬面 : 句
Author(s)	平木, 恭三郎
Citation	龍南, 2 1 0 : 4 8 - 5 0
Issue date	1929-07-01
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	http://hdl.handle.net/2298/6883
Right	

馬面

平木恭三郎

水仙蠅來て止る月白い硝子戸

雪處々向ふ林の焚火黒み

木履雪ふみにじる音を薄ら明り

三つづゝ上げた豆の羅漢に猫耕さす

肥運ぶ麥畑歸りの馬面をなで

そよ風吹き來山のなからを麥の青み

棕櫚下葉を眼白瓦に行きつ戻り

子供等抜いてゐる麥伸びし雲の影通る

水仙枯れゐる墓の南天嵐來てのゆれ

冴返る霞を妹と日向ぼこする

すれ交ふ水の川岸に嫁菜つみゐる
椿うつる谷川岩に小蝶流れ來
底朽葉澄む谷川茨芽をふく
枯葉ちる爐邊の筵に子の頭なで
落椿くだつ溝に露苔のならび
青ずむ水溜りの椿蟻の這ひゐる
桑畑畔の豆に蝶めぐる日の晴れ
白椿羊齒にさしゐる子は階にかごみ
つみ取る椿黄色水を手に受け
蠶豆花咲く葉裏に臨りゐるそよぎ
ぬか雨頬に來る散るは木蓮八重椿
雨夜やぶ小路に椿踏みし匂ふ
高菜苔出し漬ける井戸端の梨は今
朱槲接ぎし根本に咲けり白堊

庭櫻咲きそめしに華つりて遊ぶ

荒野邊の菜種に憩ふ蝶もなし

野の梅の爐を控へし白さかな

野の花の黄色なるより無りけり

たんぽゝの二つ小さし麥穗出る

春出水岸邊風吹く楸のみゆれ

洲のはしに燕いこへるよりそひて

石塔の倒れしに長き咲くれんげ

花立てを埋んばかりにれんげかな

ちる花の蒼白き夜を愛すかな

小菖蒲の露葉の縁を下り落つ